

## 平成26年度第1回石狩市地域包括支援センター運営協議会

開催日：平成26年7月28日（月）

時間：18：00～19：10

場所：石狩市総合保健福祉センター  
りんくる3F 視聴覚室

傍聴者数：0人

### 【出席者】

委員：橋本会長、橋本副会長、須貝委員、渡辺委員、野村委員、奥山委員、松原委員、山口委員、中里委員

事務局：沢田部長、田森課長、長谷川課長、内藤主査、岩本主査、中野主査、加藤主査、高田主任、熊谷課長、富木主査、若狭課長、小島主査、工藤主任、戸賀澤センター長、鈴木、斉藤、菊地センター長、秀友会窪田統括部長

### 議事録

#### ○地域包括支援センターの運営について

##### ①介護予防支援について

事務局から資料1（1Pから7P）「要支援者等の人数と予防支援計画についての状況の推移」、「サービス事業者利用実績（平成25年10～平成26年5月分）」について説明。

##### 【質問・意見】

橋本会長：ただ今、2点についてご説明を受けましたが、これらについてご質問等があれば受け賜わりますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員：はい

橋本会長：なければ会議次第2の①介護予防支援について終了いたします。続いて次第2の②各センターへの相談状況等について、2の③平成25年度の事業実績報告について、2の④平成26年度事業計画について、及び、次第3平成26年度石狩市包括支援センター運営方針（案）について一括でご説明を伺います。

##### ②各センターへの相談状況等について

##### ③平成25年度の事業実績報告について

##### ④平成26年度の事業計画について

#### ○平成26年度石狩市地域包括支援センター運営方針（案）

事務局から資料1（9P～33P）「各センターへの相談状況等について」、「平成25年度の事業実績報告について」、「平成26年度の事業計画について」、及び資料2「平成26年度石狩市地域包括支援センター運営方針（案）」について報告

【質問・意見】

渡辺委員：相談件数については、延件数でよろしいですか。

事務局：はい。

渡辺委員：虐待や認知症などの相談は大変と思いますが、昨今、認知症の行方不明や事故等がいわれているが、石狩市内では、この年度では行方不明や事故等は、何件位あったか把握していますか。

事務局：石狩市の行方不明高齢者とのことですが、経年で申し上げますが、平成23年4件、平成24年8件、平成25年4件となっています。23・24年については、皆さん無事に発見されましたが、昨年は4件と数は減っていますが2人は未だに戻ってきていない状況で、1人は死亡となっています。

山口委員：今日の道新の朝刊に、高齢者虐待が出ましたが石狩市では、事例が何件かありますがどのような内容が多いのか、また、高齢者虐待が発覚するのはどのような場合が多いのか、当然家庭内のことでしたら家族が、いうことは考えられないと思うので、周りが気付くのかケアマネが発見して公に出るのか、市の方では実態を把握していますか。

事務局：虐待の傾向ですが、身体的虐待と心理的虐待で暴言・暴行等が多いことは分かっているが、平成25年では経済的虐待、家族の方が本人の財産や年金等を本人の同意が無いまま使ってしまう、本人の生活が脅かされるケースが多くありました。発見の経緯ですがケアマネージャからの通報が多かったことと、本人からの相談も多くありました。

山口委員：これに対しての処理は難しいと思うが、家族内の話合いで終わらすのか、第三者機関、しいていけば警察まで行くのか、今後増えて来ると思うので市の方でも大変と思うが、虐待は最悪な状態なので是非防いで頂きたいと思えます。

橋本会長：包括支援課のご説明にもありましたが、成年後見センターを設置する話がありましたが、具体的にはどのような所に設置し、これからの計画等をお聞かせ願います

事務局：石狩市成年後見センターは、運営を委託しており、委託先は石狩市社会福祉協議会で、センターを開設したのは本年7月1日です。主に、成年後見制度の周知と相談を窓口として行うが、合わせて法人で成年後見を受任できるよう準備中です。また、石狩市では成年後見人を受任できる専門職がとても少なく、今後高齢者が増えて行くと地域で成年後見人を第三者でやって行ける人が少ないという課題が明らかになったり、厚田、浜益地区で活動できる専門職の方がいらっしやらない所もあって、成年後見人を養成することも、市とセンターと北海道と一緒に話合って今年研修会を開催する予定です。

橋本会長：厚田の平成25年度の報告あるいは計画の中で、助け合いマップの話がありましたが、これはどのような意味でとらえたらよろしいでしょうか。

事務局：厚田区助け合いマップですが、石狩市内全域で民生委員さんが作っているマップであり、厚田区のマップの形としてはゼンリンの地図をコピーして色別に、独居高齢者や介護が必要な方とか、透析されている方など非常時に支援が必要な方ということで丸いシールを貼って、一目でわかるように地区の民生委員さんと一緒に確認しあっています。新しく民生委員さんになった方と一緒にマップを作るとか、また、同時に入ったり出たりもあるし、介護の状態などもこちらで把握している範囲の情報の共有ということで、今年度も予定しています。

橋本会長：助け合いマップの作製は、緊急時には勿論重要ですが、普段日常的に活かして行くこともこれからは考えて行かれるのでしょうか。

事務局：昨年マップを作製していた時に、市の方で把握していなかったのですが、独居高齢者の方が息子さんと一緒に暮らしていたと思っていたが、息子さんが出稼ぎでいないとか、この方は入院していたが先週退院したとか、民生委員さんから情報を頂いて訪問につなげたり、民生委員さんに家庭環境的なことで見守るようにお願いしたり日常的な部分の情報の共有もさせていただいており、今後も積極的に取り組んで参りたいと考えています。

橋本副会長：介護予防事業についてですが、二次予防の対象が654人で実際に行ったのが50数人で、要支援と認定される方が1年間に80人ほど増えていることは、二次予防の事業としてあまり行っていないし、効果としても認められないということで良いのでしょうか。

事務局：二次予防対象者につきましては、基本チェックリストを郵送することで把握につとめているところですが、二次予防事業対象者と判定された方々に勧奨で手紙を郵送しているが、私はまだそのようなことをやるような年ではないと参加率が悪い状況にはなっていますが、二次予防の基本チェックリスト自体は現在の機能低下を判断するものではなく、このままの生活を続けていけば2~3年後には要介護になるリスクが高まることへの判定するリストであることから私共は、基本的には非常に大事なものと認識はしていますが、その部分の大事さが市民の皆様には伝わっていないところでは、介護予防の普及啓発や基本リストの説明がまだ行きとどいていないと思っています。石狩地区では、基本チェックリストを郵送させて頂いた所の会館を3~4ヶ所利用して基本チェックリストの説明会を開催して普及啓発に努めてはいますが、結果だけを見ますと参加率も非常に少なく、対費用効果を考えると低いと全国的傾向としていわれています。二次予防事業に参加をして頂いた方々の数は少ないが、非常に良かった。また、体が動くようになったとおっしゃる方も多いので、今後ますます頑張っ普及させて行きたいと思っていますところでは。

橋本副会長：郵送による基本チェックと要支援1・2になった方との相関関係や時間的な関係を調べてはいないのですか。

事務局：市のデータではないが、全国の1万数千件を調査したデータを見ると基本チェックリスト項目で、該当するものが多ければ多いほど1年後に要介護認定を受けた数が増えていたと報告されているので、リスト自体には意味は深いかと思っています。

橋本会長：浜益の相談の中身で、高齢者生活福祉センターへの入居相談が多かったとのご説明でしたが、入居相談があっても簡単に空室ができる状況ではない訳で、反応といたしますか、ちょっと難しいよみたいな形で相談されて帰られる状況でしょうか。

事務局：高齢者生活福祉センターは8室、シルバーホーム浜中荘も同じ8室しかないので、タイミング良く相談に来てもらわないと自立ないし要支援レベルの方々の入居は、なかなか難しいところです。また、少しの見守りがあればまだ自宅で生活出来る方が多いと思っています。浜益区には在宅で使えるサービスは、ヘルパーさんやデイサービス位しかないので少ないサービスをどのように組み込んで行くか、シルバーホーム等に空きが無い間、デイサービス等を増やすとかで、様子を見る等の対応をしています。

橋本会長：他に何かありませんか。(なしの声あり)

無いようですので、次第2の④平成26年度の事業計画について及び次第3平成26年度石狩市地域包括支援センター運営方針(案)は承認されました。

平成26年8月22日 議事録確定

会長署名 橋本伸也